

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



悪所くるひの身の果ては、南無網島の大長寺 ～『心中天の網島』の舞台を歩く～

大阪が育んだ「日本のシェイクスピア」こと近松門左衛門。その最高傑作『心中天の網島』の主人公・天満の紙屋治兵衛と曾根崎「紀伊屋」の遊女・小春が、享保5年(1720)10月14日未明に心中事件を起こしたのが、網島の大長寺の境内でした。現在は藤田邸跡公園となっていますが、2人の道行のあとを辿りながら、その深淵な作品世界に迫ります。

4 大阪市公館

藤田伝三郎の西邸跡です。大阪市公館は、昭和34年(1959)秋に、日米市長の会議が大阪で開催されるのを機に、迎賓館として建造されました。本館、庭園を含め約1.4ヘクタールの敷地で、庭園からは四季折々の大川の景色を眺めることが出来ます。APEC大阪会議の首脳会談や、姉妹都市歓迎レセプション、大阪市民表彰式などの場として利用されています。

5 藤田邸跡公園(大阪市指定名勝)

もとは藤田伝三郎本邸の庭園でした。公園の広さは約1.7ヘクタールで、庭園は作庭家・梅園梅叟の手によるものです。ここもかつては大長寺の敷地で、公園の正面入口は大長寺の山門と伝えられています。近松門左衛門の最高傑作『心中天の網島』の主人公・天満の紙屋治兵衛と紀伊屋の遊女・小春が、お十夜の切り回向を聞いたあとに心中したのがここです。享保5年(1720)10月14日未明のことでした。

6 桜宮橋(銀橋)

昭和5年(1930)に大川に架けられた、戦前では日本最大のアーチ橋です。橋名は、大川東岸の桜宮に由来しています。桜宮界隈は江戸時代から桜の名所として有名で、大川の兩岸、川崎から長柄の近くまで桜が続き、花見の頃には、渡船が通じ「桜の渡」と呼ばれました。対岸に見えるのが泉布観と旧ユースアートギャラリーです。

7 泉布観・旧ユースアートギャラリー

泉布観は、明治4年(1871)に造幣寮(現在の造幣局)の応接所として建設されました。「泉布」は「貨幣」、「観」は「館」を意味する言葉で、明治天皇が行幸したさいに命名しました。旧ユースアートギャラリーは造幣寮の金銀貨幣鑄造所の正面玄関を移築保存した建築物です。ともにトーマス・ウォートルスの設計で、大阪府で現存する最古の洋風建築として、国の重要文化財に指定されています。普段は非公開で、毎年、春分の日前後に一般公開されます。

8 桜宮

ご祭神は天照皇大神、八幡大神、仁徳天皇で、境内に一对の桜のご神木があります。元は野田村(現在・東野田町)の桜の馬場にありましたが、幾度も水難にあったので、宝暦6年(1756)に現在地に遷座したと伝えられています。江戸時代から桜の名所として知られ、花の盛りは「雲と見、雪と疑ふ」ほどで、『浪華の賑ひ』(文久3年・1863刊)には「美に浪花において遊宴の最上、花見の勝地」と賞されています。現在でも花見のシーズンになると多くの人々が訪れます。

9 「青湾(せいわん)」の碑

かつて大川の桜宮堤防の下に、流れが渦巻く小湾「青湾」があり、その水は非常に美味しく、豊臣秀吉が好んで茶の湯に用いたといわれています。江戸時代には隠元、上田秋成、田能村竹田といった名だたる文化人たちが賞賛して、煎茶を広めました。明治28年(1895)、桜ノ宮に上水道が出来るまで、水屋はこの地の水を水舟に積んで、飲料水として大阪市中に売り歩きました。石碑は山崎藩主・本多忠明の揮毫で、田能村直入が建碑しましたが、その落成式には大長寺で「青湾茶会」が盛大に行われました。

1 太閤園

かつては大長寺の敷地でしたが、明治42年(1909)に藤田財閥の創始者・藤田伝三郎(1841~1912)の邸宅(東邸)となりました。藤田伝三郎は長州藩の騎兵隊出身で、西南戦争のさいに軍靴、軍服、食糧の納入、人夫の斡旋などで巨万の富を得ました。また五代友厚、松本重太郎、田中市兵衛らと関西財界の発展に尽力し、南海電鉄、関西電力、三和銀行、東洋紡、毎日新聞、大阪商船など多岐の経営に携わって、多くの名門企業の礎を築きました。茶道をたしなみ、美術品の蒐集家、慈善事業家、数奇者としても高名で、民間人では初の男爵となりました。太閤園は、戦災を免れた藤田邸東邸を、高級宴会場、国際社交場として昭和34年(1959)にオープンしたもので、平成20年(2008年)にはサミット財務大臣会合の晩餐会も行われて好評を博しました。

2 松花堂(貴志康一生誕の地)

藤田邸の隣にある桜宮職員会館(現在は閉館)内には「貴志康一生誕の地」碑があります。貴志康一(1909~1937)はベルリンに留学して、大指揮者のフルトベングラーに師事。25歳で、ベルリン・フィルで自作の交響曲「仏陀」などを指揮した伝説の天才音楽家です。しかし心臓麻痺によってわずか28歳でその生涯を終えました。松花堂は康一の祖父で、織維問屋で財をなした貴志彌右衛門が、石清水八幡宮の茶室・松花堂をモデルとして建てたものです。彌右衛門が本吉兆の料理人・湯木貞一に命じて作られたのが、松花堂弁当といわれています。

3 藤田美術館

財団法人藤田美術館による東洋古美術を中心とした美術館です。藤田伝三郎と長男・平太郎(1869~1940)、二男・徳次郎(1880~1935)のコレクション…国宝9点、国の重要文化財50点を含む名品5000点が所蔵されています。ここは藤田伝三郎の本邸跡で、かつては大長寺の境内でした。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または **大阪あそ歩** でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。

10 都島由来記

「母なる川である淀川に生成した多数の島や川によって都島の大地は創建された。平安朝のころから武家や寺院などもみられたようであるが、都島の各地に集落が形成されるようになったのは、近世都島の京橋口から発する京街道が開発され、また淀川が京~大阪を結ぶ政治的、経済的大動脈となってからのことである。こうして近世を迎えて明治22年、大阪市制が敷かれ、幾多の変遷をへて昭和18年4月1日都島区の誕生をみて現在に至っている」と書かれています。ちなみに地名の都島は、古代の大隅宮や難波宮に近いことから、または両都に向き合う島(都向島)の転訛といわれています。

11 大長寺

浄土宗のお寺で、ご本尊は阿彌陀如来。開創は慶長10年(1605)で、山号は「川向山」といいます。明治18年(1885)の淀川の大洪水で莫大な被害を受け、明治42年(1909)に藤田伝三郎によって寺領を買い取られ、網島の地から現在地に移転しました。また昭和20年(1945)6月7日の空襲によって伽藍を消失。さらに昭和23年(1948)の大阪市都市計画によって境内地を大幅に縮小されました。現在の建物は昭和46年(1971)に落慶したものです。紙治と小春が心中したあとは、大長寺は比翼塚を建てて2人の冥福を祈りました。法名は紙治が「釈了智」、小春が「妙春信女」です。また、しばしば回向や開帳を行って、安永3年(1774)には遺書を公開し、版行模写して売り出すと大評判になった『摂陽奇観』(浜松歌国)にあります。現在も寺宝として2人の遺書が残っています。

12 『心中天の網島』

浄瑠璃作者・近松門左衛門(1653~1724)の68歳のときの作品で、享保5年12月6日に、全三段の世話物として大坂竹本座で初演されました。紙屋治兵衛と小春の大長寺心中事件を聞いた近松門左衛門は、そのとき住吉の酒樓で遊んでいましたが、早駕籠に乗って現場に急行し、その途上で「走り書。謡の本は近衛流。野郎帽子は若紫。悪所狂ひの身の果ては、かくなりゆくと定まりし…」という有名な道行きの書き出しを思いついたとされます。心中事件が10月14日で、その2ヶ月後には舞台化され、さすがは希代の早業師と評判になりました。とくに道行きのシーンの「名残の橋づくし」は名文中の名文として知られています。また「天の網島」とは「天網恢恢疎而不漏」(天の網の目は粗いが、決して悪人や不正を逃しはしない、という意味)という老子の言葉と、心中場所の網島とを結びつけた言葉です。

